

第 17 回日本在宅医学会大会 シンポジスト 抄録集・ホームページ掲載用原稿

シンポジウムテーマ		公募演題「実践的在宅医療～若き Dr の取り組み～」				
開催日	2015 年 4 月 25 日 (土)		時間	15:20-16:50	収容人数	150 名
講師情報	ふりがな	姓	つぎはし	名	ゆきお	
	ご芳名		次橋		幸男	
	ご所属		公益財団法人 天理よろづ相談所病院			
	部署				役職	

演題名 (80 字以内)

地域中核病院のメンバーとして急性期医療と地域医療とをつなぐ

ご略歴 (300 字以内)

2004 年佐賀医科大学卒業。天理よろづ相談所病院ジュニアレジデント、内科系シニアレジデント、2008 年チーフレジデント、2009 年京都大学大学院 (Master of Public Health) を経て、2010 年から天理よろづ相談所病院総合診療教育部、在宅世話どりセンター医員、2011 年から地域医療連携室医員を兼任する。現在、訪問診療、病院総合内科外来、ER 診療の他、医学教育 (在宅医療専門医研修、総合診療専門医プログラムの企画・運営、救急救命士教育)、病院医療連携部門として病診連携プロジェクトの推進、天理市地域包括ケアプロジェクトチームへの助言、在宅医療推進を目指した天理地区医師会との共同研究に取り組んでいる。

講演概要 (1000 字以内)

目的：地域完結型医療の実現、地域包括ケアシステムの推進を目指して、私は地域中核病院の立場から、医療連携、在宅医療に関わりながら様々な取り組みを行ってきた。本発表では、この概要と今後の展望について紹介する。

方法：当院が 2011 年～2014 年までに実施した以下の 4 つの取り組み、①天理市地域包括ケアシステムの推進、②天理地区における在宅医療導入プロセスに関する研究 (奈良県在宅医療推進モデル事業)、③退院支援の啓発・教育、④医療連携ニーズ分析、以上の概要とその学びとを報告する。

結果

① 地区医療者が、地域包括ケアシステムの方向性や、地域の取り組みを知る機会となるように、地域医療連携講演会・シンポジウム (講師：田中滋慶大名誉教授、シンポジスト：地区医師会長、民生委員、行政職員、訪問看護師、地域包括支援センター職員、病院地域連携室看護師) を企画した。本会の議論を通じて、地区医師会長から在宅医療導入プロセス (依頼窓口) を地域で統一していく必要性が示された。

② ①の報告を受けて、天理地区における在宅医療の導入状況について関係者へのインタビュー調査を実施した。この結果をもとに、当該地区において在宅医療を提供す全 12 施設にアンケート調査を行い、在宅医療導入プロセスを定量化、可視化 (見える化) した。その結果、天理地域で在宅医療を受けている患者は、診療所外来 (自院) および病院から依頼されて在宅医療へと移行したケースが最多であることが明らかとなった。さらに、在宅医療の推進のために訪問看護の充実、24 時間対応への協力体制を求める意見が有力であることが示された。

③ 患者や家族に対して継続ケアの質を担保できるように、病院医療者に対して実際の退院支援例 (ケース) を用いた教育プログラムを提供した。その結果、急性期病院では知識や技術だけではなく、退院支援に対する意識・役割の欠如、多職種交流の機会が少ないという問題点も明らかとなった。

④ 退院支援ニーズの高い疾患について医師にインタビュー調査を行ったところ、がん、脳卒中・骨折、感染症、心不全の 4 群が抽出された。さらに、実際に退院支援を必要とした患者の退院先を分析したところ、全群を通じて自宅退院が最多であった。

考察：急性期病院と在宅医療との連携は、今後さらに重要になることが予想される。在宅医療を内包する地域包括ケアシステム推進に向けて、地域一体となった取り組みが求められている。